

保育かながわ

発行所

横浜市神奈川区沢波4の2
神奈川県保育会

発行人

富 田 英 雄

題字

故 内山岩太郎 筆



大和市第十六回

保育の集い

さる一月二十八日、大和市保健福祉センターで「保育の集い」が開催されました。「一、未来を築く子ども達のすばらしい発達を願ひ二、保護者や地域の人々と共に子育てを考えて行く」と言う趣旨に従って、各保育園挙げて、全職員の手作りで準備は進められました。手作りの温かみはとても好評で、大人も子どもも共に楽しい一時を過ごしました。特に保育者の劇や踊り、手作り玩具、人形劇、あそぼうコーナ、育児相談室など、どこも楽しい雰囲気の中で、一般市民の子ども達も、キラキラと眼を輝かせて喜んでおりました。ちなみに当日の参加者は約六百名、内三分の二は一般市民の参加で、年毎に盛会になることを嬉しく感謝しております。

エンゼルプランに積極的に取り組もう

神奈川県保育会会長 富田英雄

矢は放たれました。もう後へは引けません。好むと好まざるに問わず、エンゼルプランに積極的に取り組まねばならなくなりまし

た。大蔵省・厚生省・自治省三者合意による緊急五か年計画がそれを意味しています。通常、国の予算は五年間も措置をしません。翌年分について各省庁と大蔵省とのしを削って一大攻防戦をおこないます。ですからこの緊急五か年計画は与党プロジェクトチームの結論と村山首相の福祉に対する強い姿勢に大蔵省が渋々承知したものだといえます。先日神奈川県保育会が県下各地の保育の討議結果をまとめた文書にあるような、エンゼルプランそのものに反対しているかのように思われるような議論をする時期は既に過ぎて、今やエンゼルプランのどのメニューなら自分の保育園で実施可能かとか地

育園は現在サービスマンとして六時半頃までの延長保育を実施していただきますから、制度に乗せることは難しい事ではありません。市町村の担当課長とじっくり話し合って決断して下さい。厚生省の考える実施箇所数に近い成果を望めない今後の保育予算は多くを望めないどころか文部省に流されてしまつてしまう。国は保育園は0-2歳児を強化し幼稚園は3歳児を強化しようとする方針だからです。

今、保育園は家庭での躾の補完という役目を終えて、親と一緒に躾をする時代になりました。子ども達は一日二十四時間のうち十三時間を保育園で過ごすわけですから。

阪神大震災に学ぶこと

阪神大震災の犠牲者の方々に心からご冥福をお祈りし、そこから得たいろいろな情報を最大限に活用して、私達も地震対策に備えましょう。阪神は地震がないとか、三浦半島は特に地震対策をしないとかそもそもおかしいのです。

火山帯と地震帯は一致しますから太平洋の海底火山の頂上である日本列島はいつでもどこでも地震が起きる心配があります。阪神大震災が昼間起きたとしたらどうでしょう。交通手段が全て止まって、親は保育園に迎えに来られません。

二、三日は保育園で泊める必要が生ずるでしょう。また、地域の人は遠い広域避難所には行けないので保育園に避難して来ると思います。小さな避難所には食糧が二・三日は届かない事がわかりましたから、地域の人達と園児が最低三日間は生活できる必需品を備蓄しなければなりません。必ず停電になりますから暗い所が怖い子ども達のために灯りが必要ですし、受水槽の水を汲み上げるにも発電機を用意する必要があります。井戸のある所は手押しポンプがあるか、正常に使えるかチェックも必要です。井戸水はトイレに使えますし、煮沸すれば飲料水にもなります。食料は地域の人達の分を計算して

これからどうなる福祉 エンゼルプランと私たち

副会長 草山 充

備蓄して置きましょう。地域の人達の分の費用は今市町村がそれぞれ備蓄を見直しをしていますから、その予算の一部を地域の人達の分として施設に手当て欲しいと思っています。米や味噌、醤油は一週間分は必要です。被災者の話によれば「ご飯と味噌汁が活力のもとになると痛感した」。そうです。神戸では

保育園の被害状況を調査するのに連絡する手段がないので足で調べたそうです。保育園の新しい問題点としては保育を再開したが子どもが疎開先から戻らず休園したということ。神奈川県保育会ではこれらの情報をよく分析して神奈川県に適用した防災対策の検討会の開催準備を進めています。

九兆)の九割が年金と医療保険です。税制改革は無駄の見直しと福祉に金を使う(二割に増やす)ことです。

エンゼルプラン

エンゼルプランは事業官庁として厚生・文部・労働・建設の4大臣が平成六年十二月十六日に合意したものです。背景には少子化の影響と原因、働くことと出産・育児の両立があります。エンゼルプランの特徴は子育て支援を総合的に行うことで、子育て、教育、住居、労働条件等を各省が係わって十年間で計画的にすすめることにあります。実施に当たっての財源の確保は

大臣が合意したもので、財源は5カ年間の累計で約3,000億円が投入されることになっています。

平成7年度予算における緊急保育5カ年事業は次のとおりです。

〈追加財源による新制度〉

二一世紀の保育が見えてきた

会員の皆さんの園は、その時はたしてどんな活動をしているでしょうか、今の運営が二一世紀の保育所像に結びつくでしょうか。福祉の流れは利用者本位、普遍化、地域化していきます。保育制度が変わると行政による調整がなくなり、保育所全体として十分な受皿をもちながら、保護者がそれを選択することになります。

二一世紀の保育所運営のポイント

①地域の児童福祉計画での位置

②保育制度の研究

③保育ニーズの把握

④職員の資質の向上

⑤保育内容の充実(誰にもわかる保育)

⑥在宅子育て支援事業の充実

以上にあわせて「幼稚園」との関係や「子ども未来財団」の事業にも注意して下さい。

二一世紀福祉ビジョン

少子・高齢社会に向けて二一世紀初頭にはもっとと老人介護・子育て支援等福祉に財源を持つてこまうというものです。社会保障給付費(五

実施に当たっての財源の確保は国費ベースで次の通りです。

H7年度は180億円が予算化され、税制改革実施のH9年には、500億円が予定されています。

緊急保育対策等5カ年計画事業(エンゼルプランの施策の具体化)

① 低年齢児(0-2歳児)保育

② 延長保育

③ 一時保育

④ 乳幼児健康支援デイサービス事業

⑤ 放課後児童クラブ

⑥ 地域子育て支援センター

〈5カ年事業の初年度施策〉

主任・中堅保母研修会

調理員研修会

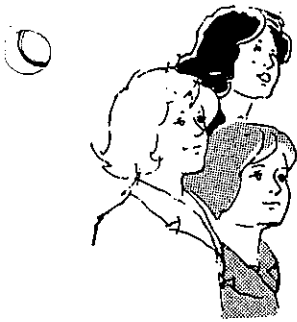
十一月七日・八日の両日、湯河原町、ホテル観山で開催。受講者六十名。第一日①講話「多様化する保育ニーズの中の主任・中堅保母の役割」川崎市社協保育分科会会長、聖美保育園長、小川玉子先生。(2)グループ討議。第二日、(1)講話 神奈川県保育会会長、岩瀬保育園長、富田英雄先生より保育制度の動向、駅型保育所の出現、主任・中堅保母の心得・見識等について極めて卒直で厳しい指摘と説明がなされました。(2)講話「食事とおやつの上手な与え方」神奈川県歯科医師会、柏木 勝先生より

としての期待も大きい。人材を育てるといふ役割も担っている。②企業は徹底して、おじぎ、言葉遣い等マナーを仕付けている。保母達が園児の保護者に対して腰を四十五度に折って、おじぎすることができるか。ふんぞり返って尊大な態度をとるなどは決してあってはならない。③園児の保護者から、園の姿勢、保育業務執行への信頼を得られるように努めるべきである。

なお第一日の夜の懇親会は大変和やかで活気のあるものでした。

本年度の調理員研修会が一月二十日、県社会福祉会館講堂で開催された。受講者一四四名(その大半は調理員の方々、そして栄養士の方若干名、園長、保母の方各一名)。主催者の県保育会より富田会長をはじめ十九名参加。研修内容は次の通り。一、給食問題研究委員会からの調査研究報告。二、講話。①「食事づくりと栄養教育」子どもたちにとって食事とは」女子栄養大学助教授 二見大介先生。(2)「よい歯を育てる食生活」神奈川県歯科医師会 鈴木村佑子先生。三、試食 ホテルリッチ横浜で実施。今年度の調理員研修会は参加人員が多く研究内容も充実していて一応、満足のできるものであったと言えます。

前記、二見大介先生の講話の中から次のことを付記します。①味覚のトレーニング、舌の勉強による味覚の豊富化と食文化の体験を目指す。②現代は「給食から食事へ」移行し集団を対象とした貧困時代の平均的内容から個人対応の食事への移行。このことは保育指針でも示されている。③空腹感は最高の味付け。子ども達にとっては、空腹感をもたらす迄の遊び(生活活動)が必要。④今は一般的に六十数%は加工食品を摂取している。二見大介先生は終始、情熱的に話してくれました。前記鈴木村佑子先生は、子どもの歯科衛生に関して大量のスライドを使って、詳細、懇切に説明してくれました。



第38回 全国保育研究大会

「大きくふくらませる子どもたちの夢―すてきな保育所そして私たち―」を主題に第三十八回全国保育研究大会が十一月十六日―十八日の三日間、砂丘で名高く、日本の保育所の発祥の地である鳥取市で開催されました。

大会初日は、郷土芸能で幕があきました。開会式では主催者の挨拶に続き、四〇四名の各表彰があり、うち、神奈川県では感謝状―

長谷川保先生、会長表彰―奥村和昭、城所ミサ子、小川秀子、都築融光、柏木育子、亀谷美代子各先生方が受けられました。

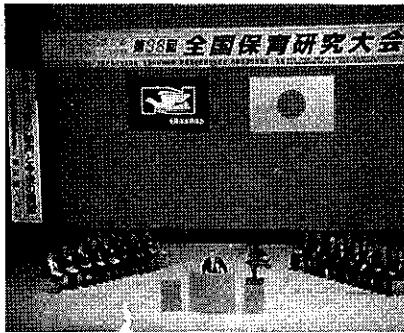
ついで、来賓の方々の挨拶で式は終了しましたが、西尾鳥取県知事の唱歌「ふるさと」は多くの課題をかかえている保育界に、厳しい中にも温かな歩みを示唆するかのようでした。

講演は厚生省児童家庭局保育課長柴田雅人氏により「保育の動向と今後の展望」と、題するもので、保育所制度改革について、エンゼルプランについて、市町村

における保育計画について、民間の保育サービスについて等、明確に語られました。

つづいては日本社会福祉大学教授京極高宣氏により「これからの保育を展望する」と題した基調講演でした。「巨視的な展望で保育所を中心とした保育制度のあり方について考えるべきである」という視点から総合的子育てセンター構想が述べられました。

二日目は十四の分科会に分れ、終日、各テーマに基づいて熱心な討議が行われました。特に、特別分科会「保育制度を考える」では白熱した討議のなかに、今後に向けて、貴重な意見が出されました。なお、第六分科会では神奈川県保育会から秦野市立渋沢保育園園長



鎌田初子先生が意見発表されました。

最終日は、地元鳥取県出身の衆議院文教委員会調査室長の長谷川善一氏による記念講演「国際化と子どもたち」でした。ご自身の海外生活の実体験を踏まえ、「異文化との共存には家庭の役割と教師の努力が重点であり、声をかけあうことから交流が始まる。」というところがなされました。

最後に大会宣言では、子どもたちの成長と発達に常に目を向け地域の子育て環境の整備やその体制づくりとともに、これからの保育所の運営と活動の強化を図っていくことを誓い、大会の幕を閉じました。

全社協全国保育協議会会長 表彰を受けて 奥村和昭

このたび、県・市保育会の御推薦を受けて第38回全国保育研究大会の席上で全社協全国保育協議会会長から表彰を受けて参りました。

多年にわたり保育事業に御尽力された本部役員の顕彰や、各県単位組織の発展推進に寄与された方々に対する感謝に引き続き北海道から順に三七八名の被表彰者の名前が読み上げられました。

神奈川県からは都築副会長を始め県保育会の中心となつて御活躍中の先生方が表彰を受けられた中にまじつて年齢だけ多い私が、雑魚の魚まじり、で一緒に表彰を受け誠に申し訳ない気持ち一杯です。

この表彰はまだまだこれから元気で仕事に励めよとのほげましと受け止め、益々高まる保育需要の多様化に添えて行きたいと願っておりますのでこれからも一層の御指導御支援を下さいますようお願い申し上げます。

関東ブロック保育事業 連絡協議会に参加して

副会長 岩 沢 貞 吉

本年度後期の協議会（十一月二
八・九日）が、山梨県湯村温泉常
磐ホテルで、開催された。当会か
らは、冨田会長ほか四副会長・事
務局も参加した。

保育部会の協議題は、各都県市
での子育て支援事業の実施状況・
特別保育事業の実施要件（実施の
ポイント）や保協の私立部会の状
況・福利厚生及保協の組織体制な
どであった。数値目標など上げな
がらエンゼルプランが具体的に示
されつつある中で、こうした重要
な事業の進展に向けての様々な模
索が報告された。

当会から提起した特別保育事業
の実施要件については、県内各市
町村の例から、うまくいっている
要因や何が障害になっているのか
など分析しながら協議が進められ

た。

また、市町村レベルでの取り組
み体制の弱さも指摘され、行政担
当者も交えての制度研究や研修の
機会を充分もつことの必要性が感
じられた。今後は、都県市及び市
町村のレベルで、エンゼルプラン
に全体として取組むためのプラン
づくりが欠かせないと思われる。

二日目の全体会で、松川全保協
副会長（関東ブロック長）より、
エンゼルプランの背景を踏まえて
保育所が地域福祉施設としてどう
社会の期待に添えていくか、特別
なことでなく保育所としてやる
べきことをきちんとやればよい、
という話を伺った。

なお、七年度に横浜で開催され
る関東ブロック保育研究大会の骨
子が承認された。

兵庫県南部地震の 災害状況について

去る平成七年一月十七日（火）
に発生した「兵庫県南部地震」は
阪神地区の多くの市町に多大な被
害をもたらしました。

保育所の被害状況

（平成七年二月一日現在）

- 人的被害
 - (1) 死亡 三十人（施設外で被害）
 - (2) 負傷（軽傷）二十九人（施設外で被害）
- 物的被害
 - (1) 全壊 五棟
 - (2) 半壊 十二棟

地震から身を守るための10カ条

- 1 ます身の安全を
- 2 大揺れが来たとき
- 3 阪神間の山間部は
- 4 大揺れが来たとき
- 5 大揺れが来たとき
- 6 狭い路地やロタン
- 7 山崩れがけ崩れ津波に注意
- 8 避難は徒歩で
- 9 協力し合って応急救護
- 10 応急救護

お別れします

保育会事務局 石 井 勝

県社会福祉会館の周りには、きれいな花がたくさんあります。そして、それは四季折々私達を楽しませてくれました。

2年前保育会事務局にお世話になった時は桜が満開でした。

年々歳々花あい似たりといいますがこの時期花は同じように咲き誇っておりますが、私は皆様とお別れすることになりました。

保育会事務局の仕事は4、5、6月と保育事業大会を中心にかなり忙しく、週30時間の勤務ではやりきれませんでした。しかし、8月になると全く暇になり、それは時計が止まってしまったような日々が続き、一日たつても電話もなく、隣りにある沢渡中央公園へ散歩にでかけますが、夏の暑さは散歩の気分にはしてくれませんでした。

秋から暮、年明けにかけて、催し物、各種研修会が続き、また気持ちをはきしめて働きました。

2年間、ほんとうにありがとうございました。ございました。

富田会長をはじめ、保育会委員の方、保母会さん、県社協、各団体の皆様には直接お別れを申し上げますが、行政機関、各園の園長さん、職員の方々にはこの紙面をお借りしてお礼を申し上げるよりありません。ありがとうございます。お別れします。

おめでとーございませう

平成六年度中に本会関係者で大巨表彰以上の栄誉を受けた方々

春の叙勲

春光保育園 橘川 芳子様

みどり保育園 山崎田鶴子様

秋の叙勲

久野保育園 近藤 保治様

元山王保育園 瀬戸 佳子様

厚生大臣表彰

わかたけ保育園 吉川 久子様

洲野辺保育園 若林 文子様

ご冥福お祈りいたします

○中谷千代氏 (木之花保育園 理事長)

平成六年四月二十二日逝去

○大地兼香氏 (前上和田保育園 理事長兼園長)

平成七年二月一日逝去

○石野きよ子氏 (ふくざわ保育園 理事長兼園長)

平成七年三月十一日逝去

平成七年度の 主な事業予定

◎保育事業大会

平成七年五月二十日

◎関東ブロック保育研究大会

平成七年七月五〜七日

◎全国保育研究大会

平成七年十月二五〜二七日

◆平成七年度全国共通研究テーマ

神奈川県発表割り当て

第3分科会

保育所職員の資質向上をめ

ざして

第7分科会

地域社会交流をめざして

第1分科会

新保育指針の実践をめざして

—— 3歳未満児

編 集 後 記

一九九五年も明け、保育制度変革への嵐の中で、一月十七日未明阪神大震災という大変な事態が起こった。その後も報道される震災のニュースには、寒風の中でテント生活等、どうにかならないのかといった、もどかしい状況ばかりが写し出される。この状況は、いつか我々の住んでいる所でも起こる可能性が有るのだ。

被災された方々には心からお見舞い申し上げます。

兵庫県の教訓を生かしつつ、災害への対策を再検討しなければならぬ。しかし、現実には果たしてどれだけの事が出来得るのか？といった疑問も湧き上がる昨今である。

キラキラと輝く瞳と元気の良い子らの声がいとも聞こえる、保育園であるように努力を惜しんでほならないと考える。

広報部 服部トミ子